

一般質問とは、町の施策等について、議員が町に考えや意見を求めるものです。議会だよりでは、このやりとりを要約して報告します。



1年って、あつという間ですよ。楽しみます。

高瀬 勉が問う

次期町長選挙に対する考えは

Q 就任時の所信表明等で示した3つの基本方針。今任期も残すところ1年余りとなったが、各取り組みの評価は。

A 町長 基本方針の1点目「町活性化のために」では、企業立地支援条例に基づき、ひばり台と旧消防跡地の町有地に企業を誘致しました。2点目の「安全安心のまちづくり」では、主に子育て支援施策の充実を図り、合計特殊出生率も平成24年0.78から平成27年1.13と向上しつつあります。3点目の「豊かな自然と歴史文化を観光資源として活用」では、ユネス



住民満足度と危機管理、高めていきましよう。

戸口 勝が問う

子育て支援の体制強化を

Q 「町の子育て支援は、一貫して安心だ」と思える、すべての歩行者・運転者に向けた現子育て支援センター周辺の道路改善はできないか。

A 政策推進課長 子育て支援に力を入れていることが決定しており、職員駐車場からの導線を初め、交通安全をどうするのか協議を重ねていきます。

Q 管轄する課を超える案件が増えていく中、特命組織として縦横断的に各課をつなぐことが求められる。事業の魂、人の知恵と信頼を結び、俯瞰的な立ち場



新年度事業の設計工事発注・完成引き渡しを早期に。

松本修三が問う

平成29年度事業の進捗は

Q 子育て支援の拠点となる現子育て支援センターの改修だが、床暖房を取り入れる等、子供たちに優しい改修を。

A 子育て支援課長 設計業務を7月末に済ませ、来年3月の完成を目標に進めています。子育てに関するワンストップ総合窓口や子育てサロンの開設を初め、検診・療育棟の増築、エレベーターの設置、授乳室の新設及びトイレ・空調・照明・床等にわたり、子供たちに夢を与えるようなものを設計業者に伝えています。



第2回和紙サミットを成功に導いた町長。さらなるリーダーシップの発揮に期待します。

Q 無形文化遺産登録を受けた細川紙を活用するとともに、後継者育成事業に取り組んでいます。さる5月12日には、ユネスコ総会議長スタンレー・ムツンバ・シマター氏が来町し、紙漉き技術を視察しました。今後、小川和紙のPRに当たり、さまざまな機会で今訪問をアピールしていきます。

A 町長 町には、まだまだ諸課題が山積んでいます。したがって、今後も「生まれてよかった・住んでよかった・長生きしてよかった」と思えるまちづくりを最大の目標とし、「町民とともに歩む」を旗印に町職員と一丸になり、引き続き町政運営の重責を担っていきたくと考えています。



子育て支援拠点の周辺は、全てのひとに優しく安全でありたい。

Q 町独自のミサイル着弾や核の使用に備える危機管理と地域支援は。防災地域支援課長 国からの指示が時間的な余裕をもって発令されるには限らないので、迅速かつ的確な措置を実施できるような体制をとる必要があると考えます。そして、自主防災組織の活動や地域活動を通じ、今後も地域コミュニティの活性化に努めていきます。

「想定内」の危機管理体制を

A 副町長 現状、役割とすれば副町長である自分ですが、特命組織が必要なのか研究し、各課の温度差がなくなるよう調整を図っていきます。



地方創生拠点整備交付金の活用で、生まれ変わる現在の子育て支援センター。

Q 閉校から6年が経過する旧上野台中学校。再利用の計画は。政策推進課長 現在は特別養護老人ホームを初め、保育所等の子育て支援施設や東小川地区の路上駐車解消のための駐車場等の活用を模索し、敷地の売却に向けた協議を関係各課で行ないました。

A 町内業者育成に資する町の考え・取り組みは。政策推進課長 雇用の創出や税収の確保、地域経済の活性化や災害時の対応等からも町内業者の育成は大変重要だと考えています。町発注の公共工事においては、地元業者の受注機会を確保するために、指名競争入札の中で規模や内容に応じ、地元業者を指名するよう努めていきます。



仙元山見晴らしの丘公園。開園時間外ですが、夜景や御来光、条件が整うとスカイツリーも見えます。

(Y・Tさん・26歳)



笠原の奥の宮ノ倉ハイキングの人たちのためのトイレ。いつもきれい。それに周りの花も、小さな川の魚もかわいい。

(T・Yさん・77歳)



市野川沿いの土手。菜の花、曼珠沙華など季節を感じる。

(Y・Iさん・70歳)



カタクリの里ウォーキング。

(S・Yさん・49歳)

Mini Column
オガワマチのこと
ギカイのこと
一緒に見よう、考えよう
「小川町のおすすめスポット」